

基本練習問題 18-2

<解答>

I 売上高	(500,000) ㉠
II 変動売上原価	(313,000) ㉡
変動製造マージン	(187,000)
III 変動販売費	<u>40,000</u>
限界利益	(147,000)
IV 固定費	
1. 固定製造原価 ㉢ (78,900)	
2. 固定販売費 ㉢ (22,200)	
3. 一般管理費 ㉢ <u>(11,600)</u>	<u>(112,700)</u>
営業利益	<u>(34,300)</u>

【解説】

与えられた資料に基づいて直接原価計算方式の損益計算書を作成する問題だが、例題 18-2 と比べると、資料の与え方が難しくなっている。ポイントとしては、㉠変動販売費から売上高を推定する点と、㉡変動売上原価の計算の2点である。

㉠売上高の推定

問題文資料に売上高は変動販売費の 8%という条件設定があり、当期の変動販売費が 40,000 円であるから、売上高は $40,000 \div 0.08 = 500,000$ 円である。

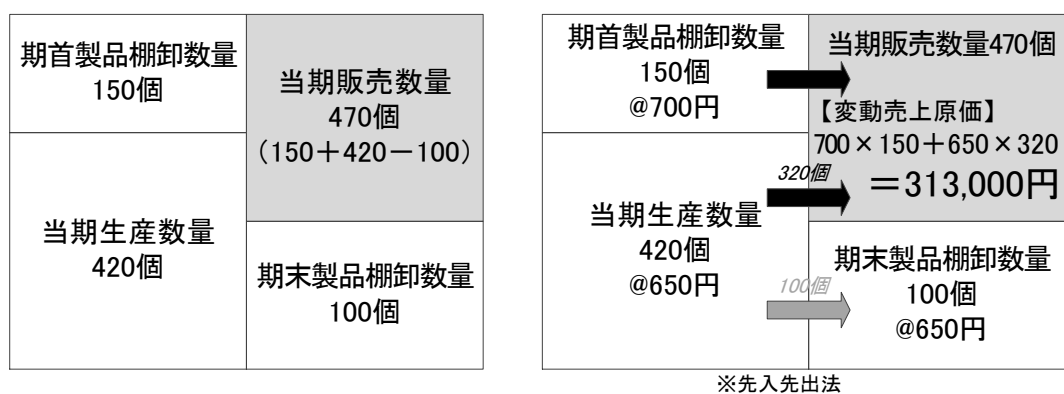
※次ページへ続く

⑧変動売上原価の計算（下記の図も参照）

棚卸資産の評価は先入先出法を採用していることから、期首製品棚卸数量 150 個は当期中に販売される。また、当期生産数量 420 個と期末製品棚卸数量 100 個という情報より、当期の販売数量は $150 + 420 - 100 = 470$ 個であるとわかる。これより、期末製品棚卸数量 100 個は当期製造分から発生していると読み取れるため、当期製造分の変動製造原価は @650 円とわかる。

したがって、当期に販売された 470 個のうち 150 個は期首製品棚卸分であり、320 個は当期製造分であるとわかる。以上より、変動売上原価を計算すると次のようになる。

$$700 \times 150 + 650 \times 320 = 313,000 \text{ 円}$$



⑨固定費の取り扱い

固定製造原価、固定販売費、一般管理費は期間原価であるから、当期に発生した金額をそのまま記入する。したがって、資料で与えられた金額をそのまま記入すればよい。